

打てば響く笑顔の人たち

2000 年前後に、JICA 専門家と月 1 回の定例会議をしていた時のこと。

いやあ、感動しました。実は JICA 事務所の運転手が自腹で英語を勉強し出したんです。びっくりしてなぜ？と聞いたら、所長（自分）から「日本から来る出張者はスペイン語が分からない人が殆ど。だけど英語ならわかる。だから片言でいいので英語が運転手のあなたも出来るといいんだけど」と言われたから、とのこと。確かに車に乗っている最中にそう語ったことはありましたが、まさか自腹で勉強しようとするとは、なんて真摯、ひたむきなんだ！と感動しました。

国家開発計画を国民参加型で下から議論して積み上げて作ったのも凄い。日本ではとてもできない。日本とは国の規模が違うというなら、日本の県で県の開発計画をそのように作ったという話を聞いたことがない。出来たものの実現性は…かもしれないが。中央政府が国民を巻き込んで作るなんて、どちらがより民主的な国か考えさせられる。



(左から二番目が筆者)



(左から二番目が筆者)

エルサルの人たちが打てば響くのは、国の面積は四国と同じなのに人口は四国の倍もあり、資源はないから、自分たちでなんとかしなければという切羽詰まった感があるからかも。その点、日本の地方はお金が中央政府から交付され、何かあったら東京に頼む意識。日本も各地方が中米のように独立したら、もっと違う発展が出来るかも、独立せずとも道州制のヒントになるかもと感じた。

そんな話を他の JICA 専門家にもしたら、皆から次々同じような話が！

農業専門家「自分は以前南米のある国にいたけど、その時問題になったのが畑の休日の水やり。誰も農牧省の現地人同僚がやりたがらない。ところがエルサルで恐る恐る同じことを尋ねてみたら、みんなはい！僕がやります！と手を挙げるのでびっくりした！」

警察専門家「5日間のセミナーをやったら、5日目のセミナー最終日午後の修了式で、日本の警察でも出来ないことが起きた。何かというと、セミナー講義資料が一式まとめられて印刷製本され、各セミナー参加者に修了証書と一緒に渡された！」

外務省専門家「JICAの調査団が来て外務省と協力合意文書に署名したら、10分後、外務省のWebページに署名の記事を掲載した、とそのページを見せられた！」



また専門家以外からも、こんないい話が。

日本人夫人「お店で買い物しても、店員が親身になって色々対応してくれる。中米の別の国では、商品あるか尋ねても対応しないくせに自分で探してレジに並んだら、その店員があなたは私の客よ、と言ってきて、びっくりしたのと正反対。」

南米出身者「人々の笑顔がいい。他の中南米の国でこんな笑顔はあまり見たことがない。2001年の大地震の直後、TVのインタビューを受けた被災者が、命が助かったことを神に感謝、と答えていたが、自分の母国の人なら、神に文句を言う。」

犯罪は確かに多いけれど、こんないい面があることをもっと日本の人たちに知ってもらいたいです。

以上

上島篤志（かみしま あつし）氏

栃木県生まれ、大学卒業後 JICA に勤務。専門は中南米地域（メキシコ、ボリビア、エルサルバドルの国際機関、日本大使館、JICA 事務所等に 15 年在勤）及び民間セクター。エルサルバドルには 1998~2001 年 JICA 駐在員事務所長、2011~15 年中米統合機構(SICA)広域協力専門家として 7 年近く在勤。